

2025年度（令和7年度）幼稚園自己評価表

最終更新日 2026年（令和8年）3月30日

園番 6 福山市立手城幼稚園

1 幼稚園教育目標

遊んで 学んで 育ちあう てしろっ子

2 目指す自園の幼稚園像（ビジョン）

「一人一人が輝き 笑顔いっぱいの手城幼稚園」
 こどもが思い切り遊べる幼稚園
 こどもが安心できる清潔で安全な環境
 こどもとともに深く学びあう教職員
 家庭・地域・小学校としっかり連携する幼稚園

3 目指す幼児像

笑顔いっぱいのこども
 感性豊かにのびのびと遊ぶこども
 思いを伝え合いながら遊ぶこども
 自分で考え行動することも

4 自園の現状分析（地域環境・園の環境・幼児観・保護者、地域との連携協力・現状課題など）

本園のある地域は、市のほぼ中央部で、商業施設や住宅が密集しており交通量が多いため、こどもが安心して遊べる場や自然に触れて思いきり遊べる環境が少ない。また市外からの転居や核家族化により、子育てについて交流・相談する機会を求める保護者も多い。幼稚園が安心・安全な場となること、家庭と幼稚園と地域とが一体となって、こどもの育ちを保障していくことが求められている。

近年園児数は減少しており、大きな集団でのダイナミックな活動は難しい面もあるが、新しい環境に慣れにくい子や、人とのコミュニケーションがとりにくい子などの入園が増え、少人数の中で少しずつ必要な力を育ててほしいと願う保護者が増えてきている。

5歳児は、進級した喜びを感じ友だちを誘い合って一緒に活動することを楽しんだり、年少児の様子を気にかけてりする姿が見られる。また、創意工夫をしながら、新しい遊びを生み出す姿も見られる。しかし、2名という少人数のため、仲間と一緒に目的に向かって取組むといった集団としての育ちを保障していく難しさを感じている。

4歳児は、本年度5名の入園で、初めての集団生活となる。新しい環境への不安は見られるものの、自分がしたい遊びを見つけて遊ぶ姿や、友達や年長児がしていることに興味をもち、関わろうとする姿がみられる。療育施設との併行通園をする子もおり、環境の変化で行動を躊躇することももいる。基本的生活習慣の定着については個人差が大きい。

地域の幼稚園教育に対する関心は強く、さまざまな行事を通して多くの人たちとの出会いがあり、温かな支援と協力が得られている。また「ことばの相談室」や未就園児の会「るんるんランド」など、地域内外からの参加もあり、子育て相談の拠点としての役割も担っている。しかし、3年保育を希望する人、仕事をもつ人などが増えており、他施設への入所・入園が増えていることが考えられ、3歳児の未就園児の会への参加人数も減少の傾向がみられる。

5 今年度の重点目標と設定理由（ビジョン実現のために）

重点目標	設定理由
<input type="radio"/> 遊びを通して、主体的に学び、かわろうとすることも育てる。 <input type="radio"/> 保護者の不安に答え、課題や悩みを共有する関係を築く。 <input type="radio"/> 「ことばの相談室」や療育施設等と連携をしながら、個に応じた取組みを行う。	・安心して園生活を過ごすなかで、遊びを通して、一人一人のこどもが発見や驚き、不思議さを感じたり、試したり考えたりする経験や、友達や教師との関わりを通して、相手の思いに気づいたり自分の思いを伝えたり知り経験を重ねてほしい。そのために、一人一人の発達の特徴を共通理解すること、課題や特性に応じた配慮や関わり、環境構成などの支援体制を充実させること、個から集団へ広げていくための保育内容を構築することを通して、こどもの持っている力をさらに伸ばし、その個性を大切にしながら、たくましく生きるための心と体を育てていきたいと考える。

	3年間の目標	1年間の目標 (本年度3年目)	具体的な方策	評価	評価結果
					○=反省や課題◎=改善のための方策
生きる力の基礎	様々な遊びや動きを楽しむことを通して、しなやかな心と身体・コミュニケーション能力を育てる。	戸外遊びや運動遊びを通して、体を動かす楽しさや心地よさを感じられるようになる。 イメージや気持ちを共有する楽しさを感じたり、思いを伝え合うことで友達のよさや個性に気づいたりするようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のねらいをもとに、好きな遊びを通して、室内外で自ら体を動かして遊ぶことができる環境を工夫する。 こどもが「やってみたい」と興味をもてる遊びや活動の振り返りの工夫や、話を終わりまで聞いたり、自分の思いを言葉で伝えたりする経験を繰り返す。 	B	<p>○こども同士が思いを伝え合う経験の積み重ねや主体的に遊びに関わる環境づくりを行った。室内外の遊びをつなぐ工夫により、興味や関心の広がりが見られた。</p> <p>◎相手の気持ちを受けとめることや言葉による振り返りに難しさがみられる場面もあった。視覚的な手立てや対話を取り入れながら、経験を重ねていくとともに、言葉で伝え合う力を育てていく。</p>
	食育を通して、健康な心と体を育てる。	自分に合った量を自ら選び食べようとする子が80%になる 戸外遊びを進んでし、しっかり体を動かして遊ぶようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと一緒に食べると楽しい、遊ぶと楽しいと思えるような雰囲気作りや環境づくりをする。 定期的に家庭と連携し、家庭と食について共有する。 	A	<p>○クッキングなどの体験を通して、食への関心の広がりが見られた。自分で量を考えたり、教師と相談しながら決めたりする姿も見られるようになった。また「こどもは、食べ物への関心や食べることを楽しむようになっている」という保護者アンケートでは肯定的評価100%を得ることができた。</p> <p>◎食への興味や食べられる量には、個人差が見られた。無理のない関わりを大切にしながら、一人一人に応じた援助や家庭との連携を図り、食への意欲につなげていく。</p>
教師の役割	こどもが主体となる環境づくり・遊びの支援を通して力量を高める。	一人一人のよさや特性を理解しようとし、課題や特性に応じたねらいのもと、興味や関心をもって意欲的に活動できる環境づくりや援助を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 保育を振り返るなかで、こどもの育ちを読み取り、遊びがつながる環境構成や援助について意見交流をする。 アドバイザー、教育相談主任を招いての研修やエピソード研修を学期に1回行う。 	A	<p>○週1回のエピソード研修や日々の話し合い、アドバイザーを招いた研修を通して、多様な視点からこどもの姿を捉え、関わりや環境について見直す機会を重ねてきた。職員間での共有や協働により、こどもの個性を生かす保育の充実につながっている。</p> <p>◎今後も計画的に研修を取り入れながら、学びを実践に生かし、保育の質の向上に努めていく。</p>
信頼される幼稚園	園活動を通して、地域・保護者と共に創り上げる関係を築く。	教育内容について、細やかな情報を発信し幼稚園教育への理解を進め、活動がよくわかる保護者アンケート肯定的評価が90%以上になる。	<ul style="list-style-type: none"> こどもの育ちを保護者にわかりやすく伝えるドキュメンテーションを作り掲示や配信をする。 「幼稚園だより」「クラスの様子」を毎月1回以上配信・更新する。 未就園児の会を毎月1回実施、園庭開放として遊びの場の提供(毎日)をし、子育て相談を行う。 現状を考慮しながら地域行事に積極的に参加すると共に、地域だよりで交流内容等を発信する。 	A	<p>○日々のやりとりや情報発信を通して、園でのこどもの様子を保護者に伝えるよう努めてきた。アンケート等を通して意見を取り入れながら改善を重ねてきたことから、年度末の評価で肯定的評価100%を得ることができた。</p> <p>◎情報発信の頻度や内容の充実については、今後の課題と捉えている。写真の活用やタイムリーな発信を工夫し、より分かりやすく園の様子を伝えていく。また、地域や子育て家庭に向けた取り組みを継続し、安心して利用できる場としての役割を果たしていく。</p>

【生きる力の基礎】ー健康・人間関係・環境・言葉・表現 【教師の役割】ー計画的な環境構成・活動場面における教師の役割・人材育成

【信頼される幼稚園】ー情報提供・他の公共機関との連携・幼児と地域住民との人間関係づくり・教育相談